

## 新型コロナウイルス感染症に負けないがん診療を目指して

2021年1月13日

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

新年あけましておめでとうございます。

今月から、西日本の先生方へ、九州がんセンターからのがん診療の情報発信を開始させていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中で猛威をふるい、先行きが見えない状況です。がんの患者さんは、新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいという報告があります。さらに、がん検診の中断や患者さんご自身の受診抑制の結果として、進行がん患者さんが増加するのではないかと危惧されています。一方で、COVID-19対策で診療に制限が生じており、私たちががんの医療者の心も穏やかではありません。

しかし、当センターでは、患者さんやご家族の協力も得ながら、考えうる最大の予防策を講じており、現在は通常の診療レベルに戻しています。また、がん検診で要精検とされたようながんの確定診断がついていない(がん疑いの)患者さんでも、積極的に受入れています。さらに、全国でも有数の実績を上げている臨床試験や治験も継続しています。

九州で唯一のがん専門診療施設として、地域の先生方との連携を深め、最新のがん情報を共有することで、一人でも多くのがん患者さん・ご家族の満足度を高めることが私たちの使命だと考え、今後当センターの臨床情報を発信して参ります。



藤 也寸志  
院長



**所在地**：福岡県福岡市南区（福岡市:160万人↑、福岡県:510万人↓）

**許可病床数**：一般 411 床（高度急性期 6 床、急性期 405 床）

**悪性腫瘍患者の割合**：98%（2次医療圏より=40%、県外より=12%）

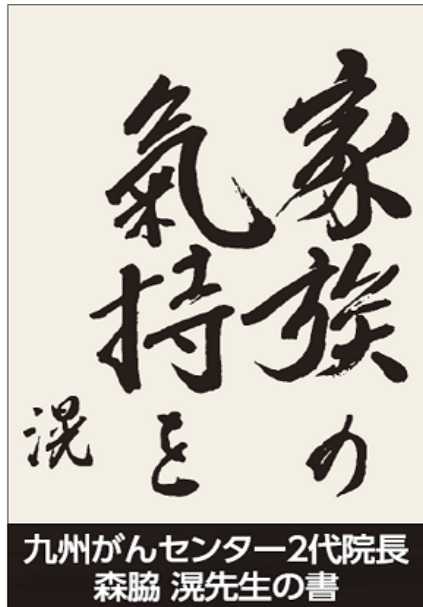
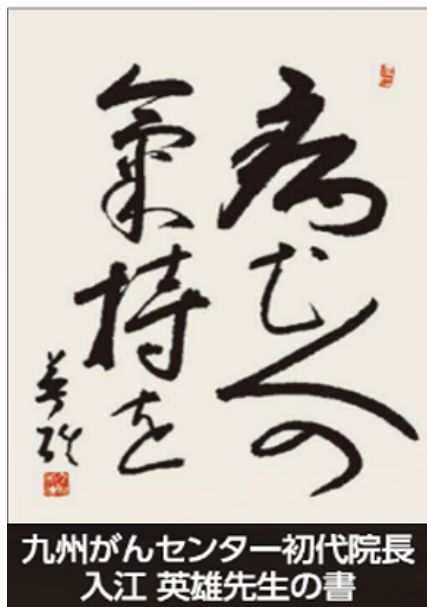
**スタッフ**：約 840 名（医師 約110名、看護師 約400名）

- ・都道府県がん診療連携拠点病院（福岡県）
- ・がんゲノム医療拠点病院

### 九州がんセンターの理念・ビジョンと診療の概要

当センターは1972年に設立され、初代院長・二代院長の言葉を含んだ基本理念 <私たちは「病む人の気持ちを」、そして「家族の気持ちを」尊重し、温かく思いやりのある、最良のがん医療をめざします>を常に心に刻み、患者さんや

ご家族の気持ちに寄り添いながら、地域の先生方と全スタッフが一丸となって診療に臨んでいます。



現在、福岡県の『都道府県がん診療連携拠点病院』および『がんゲノム医療拠点病院』に国指定されており、福岡に限らず九州のがん診療の拠点として活動をしています。入院患者さんの居住地を見ると、当センターが位置する福岡糸島2次医療圏からは約40%であり、半数以上は九州を中心とした県外を含む2次医療圏外からの受診となっています。福岡都市高速道路の野多目インターが病院前にあり、遠方からの受診でも容易です。

◆「がんの疑い」の患者さんでもご紹介ください

- ・ 検診要精査の患者さんの検査もします。

◆遠方の方は、入院での検査も可能です

- ・ 患者・家族の意向を尊重して対応します。
- ・ 患者・家族の宿泊施設（低料金）もあります。

当センターは、2016年に全面建替えによる新病院がオープンして新たな一步を踏み出しました。「患者さんにもご家族にもスタッフにも優しい日本をリードするがん専門病院」を新生九州がんセンターのビジョンとして掲げ、さらに“世界トップレベルのがん専門病院”を目指しています。そして、そのビジョンを達成するために、がんの克服を目指す診療・教育・研究体制をさらに充実させるだけでなく、“全職種が参加して一人の患者さんを支えるチーム医療の実践”および“地域の先生方との緊密な医療連携”を強力に推進しています。

昨年10月に、アメリカNewsweek誌が行ったWorld's Best Hospitals 2021のがん診療部門で、世界のトップ200病院にランクインしました。これは、4万人を越える世界の医療エキスパートによる評価の結果で、当センターが先生方とともに行う“がん医療の総合力”の高さを示しているのだと思っています。



## 九州がんセンターの診療体制とその特徴

当センター全体の主な診療実績は表の通りですが、数に表れない活動も広範かつ積極的に行っていますので、それらの取り組みについてご紹介いたします。

### 当センターの主な診療実績 (2019年)

院内がん登録数	2,140人
がん手術数	1,388人
放射線治療数	857人
薬物療法数	4,974人
緩和ケアチーム介入	350人
セカンドオピニオン	422人

#### (1) 患者さんに“寄り添う”診療体制

その最大の特徴は、診療科間・部門間の垣根がとても低く、真の意味でのチーム医療が実践できていることです。そして、標準治療を確実にいながら、新しい治療法の開発を目指して、最先端の臨床試験や治験を数多く行っています。

##### ①がんセンターボードの推進

多診療科・専門的多職種による合同カンファレンスである『がんセンターボード』を、初診患者の70%に開催しています。一診療科だけの判断ではなく、外科・内科・放射線科など複数の診療科、さらに看護師や薬剤師、臨床心理士なども含む多職種の判断も取り入れて、“一人一人の患者さんにとってベストの治療は何か”を判断しています。

##### ②年齢や全身状態を考慮した診療の展開

全国に先駆けて開設した『老年腫瘍科』による高齢者機能評価、『腫瘍循環器科』による心機能評価などを治療開始前に行い、治療適応決定や治療による合併症の予防に努めています。

##### ③薬物療法に対する取り組み

進歩が著しい抗がん薬治療に関して、医師個人に任せるのではなく、エビデンスに基づき院内で承認・登録された方法でのみ施行可能にしています。外来での薬物治療を推進していますが、一方では遠方などの理由で通院が困難な患者さんには、希望を最優先として入院での治療も行っています。

##### ④多数のがん関連資格の取得者による診療

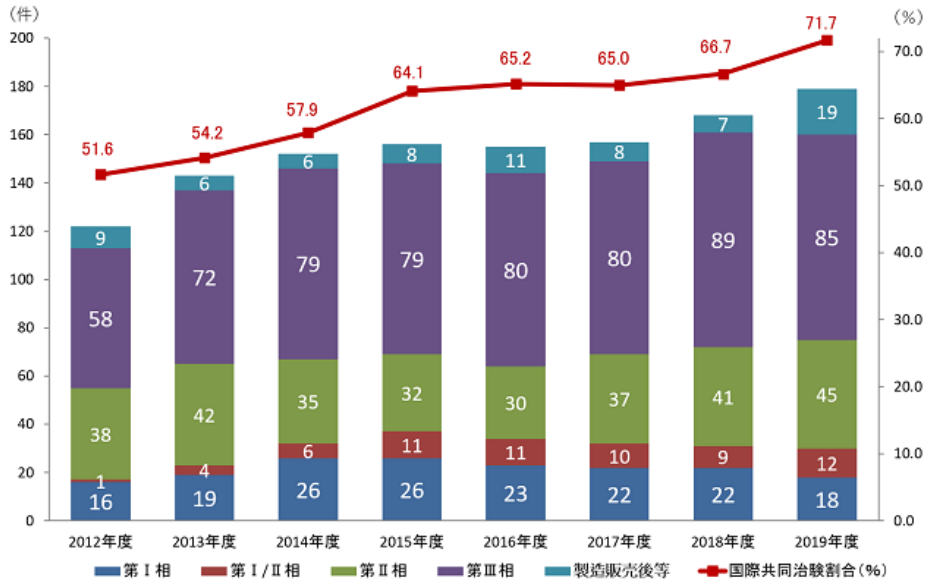
高度ながん診療のためには、各職種のプロとしての活動が必要です。当院はがん専門診療施設として、きわめて多数の各専門学会の認定医・専門医・指導医やがん治療認定医などを有しています。がん診療連携拠点病院でも全国的に人材の雇用が容易ではない放射線治療医や専従病理診断医(各3人)なども配置しています。また、がん専門・認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、放射線治療専門技師など多くの人材を確保しています。

#### (2) 新しい治療法の開発

##### ①質の高い臨床試験・治験の推進

当センターでは、がん専門診療施設としての使命の一つである臨床研究にも力を入れています。『臨床研究センター』に多くのCRC(Clinical Research Coordinator)を配置し、質の高い臨床研究を進めています。医師主導臨床試験や限定された施設でのみ可能な第1相試験を含む新薬の治験(世界規模で行われるグローバル試験を含む)を多数施行しており、この分野で日本のリーダー施設の1つになっています。標準的な治療法がなくなった多くの患者さんが、積極的に参加されています。

## 開発相別契約課題数（年度別）



### ②がんゲノム医療の推進

近年のがんゲノム医療の発展により、自分のがんの遺伝子異常の検査を希望される患者さんが増えてきています。当センターは国指定の『がんゲノム医療拠点病院』として、患者さん個々の遺伝子異常に基づく治療法について、多職種で検討するエキスパートパネルを開催しています。検査やエキスパートパネルの体制構築に加えて、患者さんの疑問や相談、心配事に対応する“がん遺伝外来”なども開設しています。

### (3) 充実した患者・家族へのサポート体制

『患者・家族支援センター』では、患者さんやご家族の広範囲のご相談に対応可能ながん相談支援センターや緩和ケアセンター、さらに先生方との緊密な連携のための地域連携室が有機的に交わりながら、患者さんやご家族をサポートしています。

#### ①がん相談支援センター

当センターのがん相談支援センターは、“認定がん相談支援センター”(全国で24施設が指定)として活動しており、院内・院外からさわめて多くの相談に対応しています。多数のがん専門相談員(看護師8人、医療ソーシャルワーカー4人)を配置しています。さらに、患者さんの就労に関する支援を行う社会保険労務士(福岡県との協働)が常駐しており、仕事と治療の両立支援コーディネーター2人とともに、がん患者さんの就労支援も行っています。

# がんのお悩み、ご相談ください

## ●●● がん相談支援センター ●●●

がん専門相談員として研修を受けたスタッフ（看護師・医療ソーシャルワーカー）が、がん治療や療養生活全般の質問や相談をお受けしております。相談内容に応じて、がん詳しい看護師（がん専門看護師・痛みや緩和ケア・化学療法などの認定看護師）、薬剤師、栄養士、治験コーディネーターなどの専門家や関係医療機関と連携ができるように体制を整えています。

相談をご希望の方は、主治医や看護師にお申し出頂くか、下記の窓口までご連絡ください。

受付時間 平日 10:00～16:00

場所 九州がんセンター 1階

お問合せ 092-541-8100(直通)

相談方法 対面または電話によるご相談を受け付けております。



面談をご希望の方は、すぐにご相談に対応することが難しい場合がありますので、できるだけ事前にご予約をお取り下さい。

## ●●● 例えばこんなとき ●●●

- がんについて「知りたい」とき
- がんの治療について「理解して納得したい」とき
- 自分の考えを「伝えたい」とき
- 療養生活のことについて「聞いてみたい」とき
- 心の悩みを「誰かに聞いてほしい」とき
- 生活や経済的なことで「心配がある」とき
- 「仕事を続けることができるか」不安なとき
- 「家族のことも相談してみたい」とき
- 患者会のことを「知りたい」ときやがんの体験者と「話がしたい」とき



他の病院で治療を受けている方でも、どなたでも利用することができます。

ご相談の内容が、相談者の許可なく主治医や通院中の病院に情報提供されることはありません。



## ②緩和ケアセンター

緩和担当医師や看護師だけでなく、臨床心理士や薬剤師など多職種が連携して、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、がん看護外来等を含む緩和ケアのチーム医療を提供しています。地域の医療機関とも連携し、院内だけでなく地域の緩和ケアの質的向上を図る体制を整備しています。また、患者さんが望む人生の最終段階における医療やケアについて、医療・介護従事者やケアチーム等と繰り返し話し合い共有するアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の取り組みを病院全体で行っています。



緩和ケアチームは、痛みなどのつらい身体症状や、不安・落ち込みなどの精神的な苦痛をやわらげ、患者さんとご家族が自分らしい生活を送れるようにサポートするための専門チームです。

主治医、病棟看護師とともに私たち「緩和ケアチーム」が安定した心身の状態でがん治療を受けることが出来るよう患者さん・ご家族をお手伝いします。

## 九州がんセンターの地域医療連携と地域への情報発信

### ①地域の医療機関への訪問

診療所を中心とした地域の医療機関の訪問によって、顔の見える医療連携を推進しています。幹部医師や診療科長に加えて、がん相談支援センター看護師長や事務員など多職種で年間約150施設に訪問させていただいています。その上で、当センターの連携医療機関として登録していただき、「かかりつけ医をもちましよう」の呼びかけとともに、ホームページや院内に掲示させていただいています。

# かかりつけ医をもちましょう

かかりつけ医は、日常的な診療の他、  
家族一人ひとりの病気の予防や健康管理のアドバイスをしてくれます。  
病状によっては、適切な医療機関を紹介してくれたり、  
とっさの場合など大変心強い存在です。  
また、現在の医療は複雑で、治療、手術など理解しにくい場合には、  
気軽に説明や相談に成してもらえます。  
(福岡県医師会「笑顔から医療フック」より)

九州がんセンターでも、かかりつけ医をもつことを推進しています。  
がんの治療は長く続く場合があります。  
自宅の近くに、何かあったらすぐに診察をしてもらえる  
「かかりつけ医」があるととても安心です。  
がんの治療を受けながら、いろいろなことを決めていくときに、相談に乗ってもらった  
り、介護のことなどもアドバイスをもらえたいします。  
是非、かかりつけ医をもちましょう。

## ②在宅医療の推進

当センターでは、がん専門診療施設として初めて『訪問看護ステーション』を開設し、がん患者さんの在宅医療を行っています。この目的は、私たち病院勤務の医師や看護師の在宅医療への理解を深めることもあります。病棟看護師が訪問時に随行したり、在宅での状況を主治医や病棟看護師にフィードバックすることにより、在宅医療の理解を深めています。また、全病棟に退院調整専従看護師を配置し、外来での入退院支援センターの活動と協働してスムーズな退院へとつなげています。

## ③地域への情報発信

がん診療連携拠点病院として、患者さんを含む市民や地域の医療者に向けて、がんに関する多くの情報発信をしています。

情報発信の取組	対象	開催場所	毎年の参加者数
病病・病診連携の会	北部九州の診療施設	福岡市渡辺通	県内外から約400人
がん患者のQOL推進事業講習会	九州各地の医療従事者	福岡市天神	県内外から約150人
医師向けがん最新情報講座	開業医などを中心とした医師	福岡市天神	県内外から約100人
市民公開講座	北部九州の市民	福岡市天神	毎年700人以上の申し込み
健康フェスタ	近隣の住民	九州がんセンター	1,000人+地域の警察署・消防署

## まとめ

今後、おそらく長期になるがん医療と新型コロナウイルスとの共存をどうしていくか、がん患者さんのためには何がベストかを、先生方とともに常に考え続ける覚悟が必要だと思えます。九州で唯一のがん専門診療施設として、地域の先生方との連携を深めて、最新のがん情報を共有して、「病む人の気持ち」を、さらに「家族の気持ち」を常に考えながら、一人でも多くのがん患者さん・ご家族の満足度を高めることが私たちの使命だと思っています。皆様方のご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

～日本をリードし世界へ目を向けた九州がんセンターを目指して～

**UICC (Union for International Cancer Control) –JAPAN に加盟**

World Cancer Day 2020 に参加  
2020/02/04 @汐留カレッタ



詳しくは、下記問い合わせ先に記載のリンクより、当センターホームページをご覧ください。

## 当コンテンツ・当院に関するアンケートにご協力ください

Q1. 今回のコンテンツを見て、さらなる情報について知りたいですか。 **必須**

- 該当しそうな患者がいるので相談したいと思った。
- 今のところ該当患者はいないが、発見した場合は紹介を前向きに検討したい。
- 本トピックで実際の勉強会があったら参加してみたい。
- 相談や勉強会までは不要だが、コンテンツがあれば引き続き見たい。
- とくに興味はない。



藤 也寸志(とう やすし)

院長

■略歴

- 1984年 九州大学医学部卒業
- 1989年 九州大学大学院医学研究科博士課程修了(医学博士)
- 1992年 M.D.Anderson Cancer Center, Tumor Biology (Houston, USA)
- 1995年 九州大学医学部第二外科・助手
- 1997年 国立病院(現・国立病院機構)九州がんセンター (臨床研究部医師、消化器外科医師、消化器外科医長、消化器外科部長、専任診療部長、統括診療部長、副院長を経て、2015年より院長)
- 2017年 日本学術会議・連携会員(第24期)

■所属学会

日本食道学会 監事

日本気管食道科学会 常任理事  
がん治療認定医機構 理事、がん治療認定医  
日本胸部外科学会 評議員  
日本癌治療学会 代議員  
日本医療マネジメント学会 評議員

## お問い合わせ先



独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター がん相談支援センター(地域連携室)

TEL:092-542-8532 8:30~16:00

FAX:092-541-3390

メールアドレス:601-keieikikaku@mail.hosp.go.jp

ホームページ:<https://kyushu-cc.hosp.go.jp/index.html>

## 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンターの記事

### 診療科の垣根を超えたオール九州がんセンターで挑む膵がん治療

古川 正幸 / 副院長消化器・肝胆膵内科

2022年6月1日



### 頭頸部癌治療に要求されるアートとサイエンスの癒合を目指した最善の治療を患者さんに届けたい

益田 宗幸 / 頭頸科部長・統括診療部長

2021年12月21日



### がん患者をトータルに診る腫瘍内科医の役割

江崎 泰斗 / 臨床研究センター長 消化管・腫瘍内科 部長

2021年8月11日



### 病む人の気持ちを、そして家族の気持ちを尊重した先進医療を一人一人の患者さんに届けた

岡本 龍郎 / 呼吸器腫瘍科 医長

2021年5月25日



[独立行政法人国立病院機構 九州がんセンターの記事を見る](#) >

[地域医療トップに戻る](#) >

## 地域連携のご担当者様へ - 情報発信しませんか？

本サービスは、地域の中核となる病院とかかりつけ医の連携を目的として、病院が取り組んでいる医療の取り組みを記事としてお伝えしています。病院から地域のかかりつけ医の先生方への情報発信についてご興味がある方は、ぜひお問い合わせください。